

## 当マニュアル内容

- ・ Implantable Port (以下 IP 又は Port と略)の優位性
- ・ IPの説明
- ・ IPの留置位置
- ・ IPの使用法
- ・ 貴方のIPに関するQ & A
- ・ IPの手入れ
- ・ 患者のIDカード

## IPの優位性

Infusaid社は、通常の生活を送りながら医療上の処置を介助するための移植タイプの器具(INFUSE-A-PORT)の製造を行っております。

IPのユニークな特徴は、それが完全に皮下に埋め込まれるところにあります。患者にとってこの意味するところは、ほぼ完全な動作の自由を得ることです。ドクターはこの器具を種々の理由で推奨してきました。Portが埋め込まれると、繰り返し行われる血流や特殊な身体部位への治療アクセスや採血がより容易に不快感が少なく行うことができます。さらにPortは最小限度のケアしか必要としません。

IPの紹介のため、このパンフレットを作成しました。もし何か器具や取扱に質問がありましたら、ドクターかナースにご連絡ください。患者はIPと医療に関しては、ドクターの助言と指示に従ってください。

## IPの説明

このPortはゴム製のPort Septumと呼ばれる、少し突起した注射針進入部を持つ、約2 - 3cm(50セントコイン大)の小さなプラスチック又は金属ディスクです。Septum部が突起しているため、皮膚の表面から容易に特定ができ、注射を簡単に素早く行えます。このSeptum部は毎使用后自動的に再密封する注目すべき材質できています。これはSeptumが、特別な針で何百回と刺しても、その完全性が保持されることを可能としています。

Portのベースとなる部分には、カテーテルと呼ばれる細く曲がり易いチューブが取り付けられています。カテーテルは通常太い血管に挿入され、PortのSeptum部より血流中に治療が施されます。他の身体部、例えば腹腔もカテーテルの挿入位置として使用されます。

IPにはサイズ及び型が多種あります。例えばPortを2つの異目的を同時に行うことを可能とさせる2つの個別Septa(Septumの複数形)を有するDual Ports(二重、二層又は共有)があります。ドクターが必要に応じてどのモデルが適当であるかの判断をします。

## IPの留置位置

各個人の状態はそれぞれ独特であります。Portは通常局所麻酔下による簡単な外科的手術により挿入されます。通院外科または救急外科ユニットでPortを挿入することも可能で、短時間後に帰宅できます。

手術で外科医は2カ所小さな切開を行います。カテーテルは一方の切開口より、選定された血管又は身体部位に位置させられ、その後もう一方の切開口へ通されます。この位置でPortを保持する”ポケット”が形成されます。カテーテルはPortと接続されPortは”ポケット”内の適所にしっかりと縫いつけられます。X線によりカテーテルが血管中の正しい位置にあるかを確認します。Portが適所に設置された後、ポケットを閉じるための若干の縫合がなされます。

術後の数日間、切開口は消毒布でテーピングされます。Port上の皮膚は腫れて痛みを感じます。しかしそれらの症状は切開口が治癒するのに伴って消失していきます。Portは必要とされるなら、移植直後使用されることもあります。またはドクターが腫れの引くまで、その使用を差し控えることもあります。術後数日間は激しい運動や精力的な活動は避けることが重要です。

## I P の使用法

Portは静脈へのアクセスに高頻度で使用されます。静脈とは私達の体内の血管です。アクセスとは本文中では、単にそれらの血管に対する入り方を意味します。

特殊なノン - コアレス針を用いて、ドクターやナースはひと刺しでPort上部の皮膚を貫いて、Septumの中心部に針を進入させます。この針はその後、次の様に多目的に使用されます...静注液、血液製剤、治療薬の受け入れ、そして検査室で検査する血液の採血等。

治療薬の注射は "bolus" と呼ばれる短時間のものから連続点滴と呼ばれる長時間に渡るものまで受け入れ可能です。連続点滴は、1時間程度のものから数日間続くものまであり、落下速度を監視するため、ポータブル型点滴注入ポンプを必要とすることがあります。もし治療が長期に渡り施されるのであれば、ドクターの判断により針はそのまま留置されたり、包帯(ガーゼ)でカバーされたり、あるいは間隔をおいて刺し替えられることになります。一度針を抜くと、包帯(包交)はもう必要としません。

## IPに関するQ & A

Q：何故私はIPを必要とするのでしょうか？

A：内科医は安全で個別ニーズに対する信頼できる手段としてIPを選んでいますが、Portは血管や身体部位に繰り返されるアクセスを容易にし、それ故にそれらの部位に与えるダメージを少なくします。

Q：今まで通り針を刺されたり、痛みを感じたりしますか？

A：Port Septum部に治療や採血のために針を刺します。ただし針を刺す場所の発見は容易です。Portの挿入直後その部分に腫れや痛みを感じます。時と共にこれらは消失し、針を刺す痛みも和らいでいきます。

Q：Portの影響で日常生活は妨げられますか？

A：一連の移植施行術直後、激しい運動は避けなければなりません。切開口が治癒すれば日常活動は再開可能となります。Portに針が刺さっていない時は、ドクターの承認があれば、入浴・水泳・運動は心配せずに行ってください。

Q：保険会社はPortの費用支払いに応じますか？

A：これは保険会社により異なります。一般的にほとんどの保険会社は、Portの移植とケアに関する費用は支払います。

Q : Portは医師が指示するX線、MRIその他診断用検査により影響を受けますか？

A : 各種の映像手法に影響を与える構成部分は、IPの中ありません。もし何か疑問点が出た際には、ドクターかナースが当社の顧客サービス部に質問することはあるでしょう。

Q : どの程度の期間Portは、移植したままでいられるのでしょうか？また不必要になったとき、取り出せるのでしょうか？

A : Portはドクターが医療に必要とする期間、移植した場所に留置されます。定期的洗浄(ブラッシング)によりPortは常時使用可能となります。ドクターがもはやPortが必要なしと判断すれば、簡単な手術で取り出せます。

Q : Portは見えますか？

A : Portは完全に皮下に移植されます。移植直後は多少の赤らみや腫れが見られることがあります。これらは数週間で消失してしまいます。Portを移植した皮膚上に小さな突起を触って感じる事が出来ますが、この突起が見える見えないは個人差があります。Portの近くに小さな傷跡が出来ますが、これも時と共に見えなくなっていくます。

## IPの手入れ

Portは完全に、皮下に移植されるので、手入れは最小ですみます。ドクターの許可があり、その指示を条件としてPortを損なう心配なく通常の入浴、水泳、運動をしても構いません。術後皮膚が治癒して、針がアクセスしていなければ、Port移植位置に包帯(包交)をしておく必要はありません。治療休止期間中は、Portは小さな皮膚上のコブと見えるだけなので、移植したことすら忘れてしまうでしょう。

周期的にPortは、使用可能状態にあるか否かを確認するため洗浄(ブラッシング)が、必要とされます。ドクター又はナースがどれくらいの頻度でこのブラッシングを行うか、また誰が行うかを知らせてくれます。さらにPort移植位置を規則正しく検査する必要があります。術後当初の予期された痛みと腫れが治まった後、切開部位や針の進入部位に余分な赤らみ、痛み、疼痛、液の侵出、発熱に気づけばドクター又はナースに通知してください。



## 患者用 I D カード

器具を移植した方々にとって、常に本人に関する適切な医学的情報が書き込まれている、I D カードを所持して置くことが大切です。皆様の便宜のため、その様なカードをこのパンフレットに添付しておきます。

病院を出る前に、貴方の P o r t を移植したドクター、ナース、又は看護スタッフに情報を書き入れるのを手助けしてもらって下さい。ドクター、病院、クリニックを訪ねる時、このカードを持って行くことを覚えておいて下さい。それにより貴方の P o r t に関する情報は、即座に提供されることになります。